



2/3 Hirado City Photo News
介護に従事する人材を応援



平戸市役所で、令和7年度第5回平戸市介護職人材確保支援事業賞賜金交付式が行われました。この事業は、平戸市内における介護職の人材確保のため、平成30年度から行われています。
今回は、特別養護老人ホーム平戸荘に勤務している下田翔さん(写真左)と特別養護老人ホーム田平ホームに勤務している辻翔太さん(写真右)に、平戸市から賞賜金を交付し激励しました。
下田さんは、「介護職として地域の皆さんを支えていけるよう頑張りたい」と抱負を述べました。

2/1 Hirado City Photo News
海風を切って疾走



平戸市役所生月支所前をスタート・ゴールとして、島の東側の海岸線に沿うコースで行われる「いきつきロード2026」大会が開催されました。
全22種目に、平戸市内外から約447人が出場し、健脚を競いました。沿道には多くの方が応援に駆け付け温かい声援を送りました。
また、招待選手として長崎県内の実業団や陸上名門校で活躍する選手も参加し、参加者らと一緒に走る姿が見られました。大会終了後は、地元の団体や業者が出店した料理を堪能していました。

1/28 Hirado City Photo News
未来につなぐ、地域の民話



1月28日、「海ノ民話プロジェクト」で平戸市が「海ノ民話のまち」として認定されました。市長室では、平戸市の野子地区を舞台に制作された海ノ民話アニメーション「女州と蛸」の完成報告会が行われ、監督の沼田心之介さんが作品に込めた思いや、制作の背景を語りました。
29日には野子小学校で上映会が開かれ、児童たちは、アニメ声優体験にも挑戦し、実際のアニメ映像に合わせて声を吹き込む貴重な体験を楽しみました。

1/24 Hirado City Photo News
10kgを超えるひらめを披露



今年で30回目を迎える平戸ひらめまつりの出荷式が志々伎漁協で行われ、志々伎漁協と平戸観光協会の皆さんが出荷に向かうトラックを見送りました。
この時期のヒラメは産卵前で脂がのっており、志々伎漁協では1kg以上のヒラメを「平戸ひらめおがみ」と名付けて売り出しています。後藤正喜組合長は「ヒラメが一番おいしい時期です。ぜひ平戸に来て新鮮なヒラメを食べてほしい」と話しました。
平戸ひらめまつりは平戸市内の飲食店や宿泊施設で3月15日(日)まで開催しています。

2/10 Hirado City Photo News
学生が見つけた地域の魅力



筑紫女学園大学現代社会学部の平戸魅力発見プロジェクト成果報告会が開催され、学生たちが地域の魅力をテーマに調査した3つの研究成果が発表されました。発表では、アルベルゴ・ディフゾータウンの実態とその可能性についてや、鄭成功を活用した川内地区の観光振興、そして福岡県内における平戸物産販売の取り組みについて、それぞれの視点からまとめられた内容が紹介されました。
学生たちは調査で得た知識をわかりやすく発表し、地域の魅力や課題を見つめ直す機会となりました。

2/3 Hirado City Photo News
泣いたが勝ちよ、はっけよい!



最教寺奥の院で「子泣き相撲」が開催され、全国から120人の赤ちゃん力士が参加しました。
泣いたほうが勝ちとなる子泣き相撲は、「赤ちゃんの泣き声が亡霊を退散させた」という逸話を起源とし、現在では子どもの健やかな成長を願う行事として、毎年節分の日に行われています。
なかなか泣かない赤ちゃん力士には、家族や行司から「はよ泣かんばよー!」と温かい声援が飛び交い、力強い泣き声と、わが子の健康を願う家族の笑い声が会場に響き渡りました。

2/1 Hirado City Photo News
春の訪れを告げる野焼き



川内峠で春の風物詩である「川内峠野焼き」が行われました。当日は、消防職員や消防団、地元住民ら約150人が参加し、川内峠南側から区画ごとに火入れを行い、放たれた火はバチバチと音をたて大きな火柱を上げながら草原に燃え広がり、約30ヘクタールの草原が炎に覆われました。
会場では各地から詰めかけた多くの写真愛好家らが、迫力ある炎の様子を撮影していました。
野焼きした跡には、3月ごろからワラビなどが芽吹きます。

1/29 Hirado City Photo News
学びの成果を胸に、未来へ



生月小学校の閉校記念式典が行われ、児童や来賓、保護者、地域住民など約250人が出席し、学校の歩みを静かに振り返りました。児童の学習発表では、これまでの学びの成果が披露され、会場からは温かな拍手が送られました。
また、会場には歴代の卒業アルバムが展示され、訪れた人の中には、懐かしい写真を眺めながら思い出を語り合う姿も見られました。閉校を迎えても、生月小学校で育まれた学びや絆は、これからも地域の中で受け継がれていきます。